

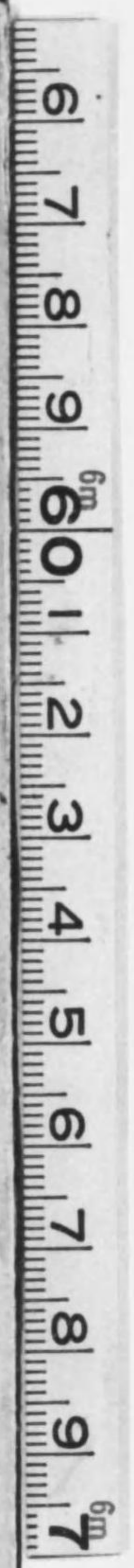
特253
389

昭和十年四月二十日

昭和九年度第七回總會會務報告

(自昭和九年四月三十一日
至昭和十年三月三十一日)

日濠協會



始



3
3

特253
384

日濠協會第七回總會會務報告

(昭和九年四月一日ヨリ
十年三月三十一日ニ至ル)



昭和九年四月一日 本年二月十七日發行の濠洲シドニー モーニング ヘラルド紙上にレーサ
々外相の使命と題する社説掲載せられたるを以て之を翻譯印刷に附して會員一同に配布した

同九年四月十九日 正午日本工業俱樂部に於て本協會第六回目の總會を開催す。

同九年四月三十日 濠洲聯邦親善使節レーサム外相一行に對する歓迎茶會を來る五月十四日

後四時より日本工業俱樂部に於て開催する旨、本協會の會員並に外務省、海軍省、商工省、英
國大使館、加藤陀公使館、日本經濟聯盟會、東京商工會議所、日本工業俱樂部、日本貿易協會
の主なる幹部諸氏へ招待狀を發送せり。

同九年五月十日 濠洲聯邦親善使節レーサム外相一行は午後九時二十分着京の豫定に付、本
協會より清水専務理事、井島理事沼津迄出迎ひに行く。

同九年五月十四日 午前中レーサム氏一行は鐘紡、東京モスリンの兩工場を視察に赴きたるた



め本協會より井島理事案内役として隨行せり。

午後四時より日本工業俱樂部に於て本協會主催のレーサム外相一行に對する茶會を開催す。

昭和九年五月二十一日 濠洲聯邦親善使節レーサム外相一行は本日長崎港より北野丸にて歸濠の途に就く、長崎碇泊中の右一行に對し本協會々長の名を以て一路平安を祈る電信を發せり。

同 九年六月五日 清水専務理事過日來腸疾患のため日本赤十字病院に入院大手術を受けたるが經過良好なり。

レーサム外相より阪谷會長宛禮狀接手せり。

同 九年六月八日 本協會より清水専務理事へ病氣見舞として生花一籠を贈る。

同 九年六月十六日 濠洲親日家にして濠洲言論界に相當有名なる United Insurance Co. of Australia, Sydney. の高級幹部たるダブルユー ジェー アール スコット氏を日本工業俱樂部に招待して本協會理事出席、午餐會を開く出席者十名。

其席上に於て阪谷會長を代表して本協會の南條副會長一場の挨拶を英語を以て述べられたり、之れに對してスコット氏は答辭として滿洲視察談を試みたり。演説概要左の如し

濠洲側より見る時は、滿洲國に牧羊業を盛にすると云ふことは、濠洲の爲には一大脅威を感ずるものであるが、此度余が實地調査をなせる處に於ては滿洲の氣候、牧草、水質、家

畜の病氣等の諸點より見て、滿洲に於ては經濟的に濠洲の如き工業上價值あるメリノー羊毛の如き優良羊毛を生産せしむる事は、至難の業であるから濠洲は安心して可なり、又滿洲(蒙古地方を除く)は非常に低濕地多きが故に羊牧には不適當にして寧ろ牛牧を盛んにする方が日、滿兩國の爲めに利益なるべし。

と結んだ。二時半盛會裡に散會せり。

同 九年六月二十九日 本協會阪谷會長よりレーサム外相宛本協會主催茶會の寫眞二葉郵送せり。

同 九年七月十九日 清水本會専務理事は病氣全快、日本赤十字病院より退院自宅に於て靜養中なり。

同 九年八月三日 濠洲聯邦政府は綿糸の關稅引上げを八月二日より實施せりとの情報シドニ
ー日本總領事より外務省通商局へ入電ありたり。

同 九年八月九日 上記濠洲輸入稅率改正實施に對する件の詳細調査報告方を外務省通商局井
上第一課長へ依頼す。

同 九年八月十二日 濠洲聯邦關稅省ムアー氏の紹介狀を以てハリー エフ ジェー ラルフ氏
本協會井島理事を訪問、日濠博覽會を明年四月より一箇年間シドニー、メルボルン兩市に於て
開催の筈なりと。

同 九年 九月 二 日

濠洲政府の命を受けて滿洲國に於ける綿羊事業竝に、小麥栽培に關する調査に出張したるスコット中佐より井島理事に宛てたる八月一日附の書狀に依れば、濠洲は滿洲國に於ける將來の綿羊事業の發展を非常に憂慮したる結果、滿洲國に對して濠洲より種羊の輸出を禁止したるも同中佐の視察に依る時はメリノ羊の増殖は氣候、牧草、水質、土質等の關係上より經濟的飼育は困難なりとの觀察を下したるにより、同中佐は日濠親善の爲めに、滿洲國に對して雜種羊の輸出禁止を解除せんと目下努力中なりとの報を受けたり。

四

同 九年 九月 十五日

外務省通商局第二課長より濠洲輸入關稅率改正に對する報告寫を入手す。

同 九年 九月 十八 日

濠洲人にて揮發油に依る羊毛洗滌器械發明代理人としてゾーリエ氏聯邦政府の紹介狀を以て來る、本協會としては各羊毛輸入商竝に毛織會社へ紹介す。

同 九年 九月 二十 日

本年五月濠洲極東親善使節レーサム閣下が來朝せられたる以來、濠洲研究熱は非常に旺盛となり、各方面より濠洲に關する問合せ瀕々たるを以て本協會に於て會報第四號を發刊し濠洲最近の事情竝に日濠通商關係竝に統計を記載す頁數一七〇。

同 九年 九月 二十一 日

正午日本工業俱樂部に於て幹事會開催す。

同 九年 九月 二十八 日

國際文化振興會の井上氏來訪、濠洲人にて本邦に在住し、本邦文化に關する研究者に講演を依頼し度旨申出ありたり、依て東京商科學大學のラッソー氏竝に武藏高等學校

のケージャー氏を推薦し置たり。

同 九年 十月 九 日

濠洲アデレイド市在住、元日本帝國名譽領事アングス パーソンス氏父子

來朝に付來る十二日同氏歡迎午餐會を催すべき旨各理事に通知せり。

同 九年 十月 十二 日

正午日本工業俱樂部に於て、濠洲アデレイド市在の元日本帝國名譽領事アングス パーソンス氏父子の歡迎午餐會を開催す、來會者合計十五名、阪谷會長は微恙の爲め食後出席せられたるを以て南條副會長は會長に代りて左の如き挨拶を爲せり。

パーソンス氏は父子三代に互り濠洲アデレイド市に於て日本帝國の名譽領事として日濠親善の爲めに盡力せられたる非常なる親日家である、今回の訪日旅行は彼我意志の疎通を圖るに最も好適の機會である、猶將來益々日濠兩國親善の爲めに盡力せられる事を望む。と述べて乾杯を爲したり。

之れに對しパーソンス氏は左の如く答辭を述べられたり。

自分は約四十年前に父に伴はれて日本に來たりし事あり、其當時の事を回顧して各般の方面に互り日本の異常なる進歩發達せる事は驚嘆するの外はない、又濠洲より日本へ輸入する羊毛の如きも近年非常なる發達をして居る、我が濠洲は羊毛、小麥、鑽石類等の原料品の產出國であり、日本は大なる製造工業國であるから日濠兩國の關係は將來益々親善せん

ことを望む。

と述べられ、一同歡を盡して午後二時半散會す。

同 九年十月十八日 本協會には濠洲に關する圖書極めて尠なきを以て阪谷會長の名を以て濠洲聯邦政府外務大臣レーサム氏に對し濠洲政府と交渉の上濠洲の政治、經濟、産業、文學其他凡ゆる濠洲に關する書籍並に印刷物の寄贈方を依頼す。

同 九年十月二十二日 清水専務理事の病氣悪化したるを以て果物一籠を贈る。

同 九年十月二十五日 帝國海軍練習艦隊參謀西尾秀彦中佐來訪。明年二月十三日同練習艦隊は横須賀を出帆濠洲に向ふ筈なるに付濠洲方面の事情を聴取せれる。

當協會より第四號會報、三十部を贈る。

同 九年十月三十一日 濠洲クキンスタン博士の井島理事宛紹介狀を以てブリスベン市のエフ・シー・パインズ氏並にニール・マックロサン氏來訪せらる、パーレン氏はブリスベン市に於ける輸入雜貨の大商人にして、同地に於ける東洋貿易協會の理事長なり。

同 九年十一月六日 濠洲ヴィクトリア洲百年祭に招待せられたる學生水泳選手清川正二(商大)坂上安太郎(早大)渡濠に付來訪せられたるを以て幹事出席して午餐を共にし其行を盛にし井島理事より濠洲政府の人々並に濠洲在住の日本商社の支店長に宛てたる紹介狀を渡す。

同 九年十一月十二日 今回日濠通商條約締結の草案を以て渡濠せらる、外務省通商局の新納事務

官、田中囑託、大木屬の諸氏のために送別會を本日正午日本工業俱樂部に於て開催す、出席者十七名、阪谷會長より左の如き一場の挨拶ありたり。

從來日本の通商條約は多く受動的のものにして、今回の如く對等的に條約を締結せんとすることは今回が始めて、然も最近の如く英國其他の通商貿易上圓滑を缺き居る際に當つて獨り濠洲が日本と親善せんとしつゝ、あるは誠に欣幸に堪へざる處である云々と述べられ

之れに對し新納事務官の挨拶あり、午後二時半解散、來會者十七名。

同 九年十一月十七日 濠洲ブリスベン市のミュー氏 京都商工會議所の紹介狀を以て來訪せらる、同氏は日本商品の貿易進出は最近増加したるも更らに激増せしむる方法ありと申出でられたるを以て本協會は同氏を東京商工會議所へ紹介せり。

同 九年十二月三日 専務理事清水精三郎氏の病氣急變悪化す。

同 九年十二月五日 専務理事清水精三郎氏本日午後五時逝去せらる、誠に痛惜の至りなり。

同 九年十二月六日 井島理事協會を代表して清水家に赴き哀悼の意を表せらる。當協會より阪谷會長の名を以て香奠金參百圓也、花輪一基(金三十圓)を贈る。

同 九年十二月 七日 専務理事清水精三郎氏は日濠親善、日濠貿易發展の爲に盡力せられたる功績により勳二等に叙せらる。

同 九年十二月 八日 故清水専務理事の告別式は本日午前十時より十一時迄青山齋場に於て舉行せらる。

同 九年十二月 十八日 濠洲聯邦政府のムアー氏より明年一月早々キャンベラに於て日濠通商條約締結に關し豫備交渉に入る旨井島理事へ通知ありたり。

同 九年十二月 三十日 帝國海軍練習艦隊西尾參謀より濠洲年鑑借用方電報を以て申越さる直ちに郵送す。

昭和十年 一月 十四日 濠洲聯邦政府外務大臣ケージー氏より、本協會阪谷會長のレーサム氏宛昨年十月十八日附書籍寄贈依頼狀に對し濠洲政府は今回濠洲に關する書籍大小合計二十七冊を本協會へ寄贈方を決定せる旨の案内狀を受取りたり。

同 十年 一月 二十六日 帝國海軍練習艦隊西尾參謀來訪練習艦隊濠洲へ出航前當協會に於て送別會開催の件に付打合せり。

同 十年 一月 三十日 正午日本工業俱樂部に於て理事會開催左の件を議す。
一、故清水精三郎氏の後任専務理事詮衡の件

八

二、岡田六男氏に幹事委囑の件

三、帝國海軍練習艦隊濠洲方面へ出航に付送別會の件

四、日濠通商條約締結に付目下濠洲キャンベラに於て交渉中に付最近の事情報告の件

五、濠洲聯邦政府外務大臣ケージー氏より當協會へ濠洲に關する書籍大小合計二十七冊寄贈案内の手紙報告の件

以上

決議

一、故清水氏の後任たる専務理事に就ては本協會理事たる井島重保氏を推薦することに衆議一決せり。

以上

同 十年 二月 一日 クキンスランド大學メルボルン博士より阪谷會長並に井島専務理事宛書狀を以て本年二月中にクキンスランド州總督サーレスリーウイルソン閣下、東京を訪問せらるゝに付日濠協會の各會員に紹介の上、日濠通商問題を腹藏なく論議する機會を與へられたしと依頼し來る。

同 十年 二月 五日 正午日本工業俱樂部に於て來る本月二十日に濠洲へ出航する帝國海軍練習艦隊司令長官中村少將以下幹部並に海軍省小島副官、田結大佐の諸氏十三名を招待して送別の宴を張る。

九

同席上阪谷會長の演説及中村司令長官の答辭ありて和氣藹々の間に會を終る。

同 十年二月七日 東京日々新聞英文課鶴岡氏來訪同社に於て來月十六日に濠洲方面へ派遣する日濠親善經濟視察團の件に付打合せを爲す。

同 十年二月十八日 正午日本工業俱樂部に於て此度私暇を利用して來朝せる濠洲クキンスラソド州總督サー レスリー ウキルソン閣下を招待して午餐會を開く、出席者理事並に評議員二十五名、同席上に於て阪谷會長は濠洲顯官の訪日を喜び將來益々日濠親善並に貿易の増進せん事を望むと云ふ挨拶に對し、總督は日本の製造工業の盛なるに反し、濠洲は原料生産國たるを以て彼我有無相通じ以て將來益々日濠兩國の親善を圖ることを望むと答辭せらる。

總督は日本に滞在せらるゝ期間極めて短かゝりしも日濠貿易に最も關係深き本協會の會員と腹藏なき意見の交換を爲し盛會裡に午後二時四十五分解散す。

昨年五月濠洲聯邦政府副總理兼外務大臣レーサム閣下の來訪以來日濠親善關係は頓に好轉し今回ウキルソン總督の訪日を見たるが如きは日濠兩國關係をして益々親善ならしむるものと言ふべし。

同 十年二月十五日 帝國海軍練習艦隊よりの希望により本協會翻譯にかゝる「濠洲極東親善使節レーサム閣下復命書抄譯」二百部練習艦隊へ寄贈す。

同 十年二月二十日 昨年來朝せる濠洲聯邦政府の極東親善使節レーサム閣下の復命書を入手したるを以て井島專務理事は右復命書中日本に關する部分だけを抄譯、阪谷會長の名を以て各省、本協會々員、各商事會社、各商工會議所、各大學其他各關係先へ約一千部を配布したるに其反響する處大なりしは日濠親善の爲め慶賀に堪へざる處なり。

同 十年二月二十六日 滿鐵地方部農産課内田藤吉氏滿洲國黒山頭に於ける綿羊改良事業の件にて來訪せらる。

同 十年二月二十八日 本協會書記佐藤賢太郎氏此度朝鮮土地株式會社へ榮轉せらる。

同 十年三月一日 本協會書記佐藤氏の後任として山岡讓氏就任せらる。

同 十年三月一日 副會長理事南條金雄氏(前三井物産株式會社取締役會長)は今回三井合名會社常務理事に就任されたるを以て本協會後任副會長として三井物産株式會社新取締役會長井上治兵衛氏を推薦せられたしと同社本店秘書課長より申出でらる。

同 十年三月五日 大阪商工會議所理事高柳松一郎氏の提唱により日濠親善及び兩國の通商發展を圖る目的を以て大阪商工會議所内に日濠通商懇話會なるものを組織したる旨の記事を東京日々新聞に(三月二日附)於て散見したるを以て本協會は右の趣旨を時機に適したるものとして將來本協會と聯絡を採られる様申言す、同時に本協會々報二拾部、レーサム氏復命書抄譯五拾

部を同會へ寄贈す。

一一

同 十年三月十一日 東京日々新聞並に大阪毎日の主催にかゝる、日濠親善經濟視察團長經濟學博士安部賢一郎氏來訪濠洲事情問合せありたる爲め、本協會の報告其他を送る、因に同一行は來る三月十六日バラオ丸にて横濱出帆の豫定なり。

同新聞社に於てジャパン ツー オーストラリアなる二十四頁のグラビヤ寫真入りの特別號を出版し濠洲の關係先へ廣く配布するに付阪谷會長のメッセージを英文にて掲げることとせり。

同 十年三月十三日 幹事會を正午日本工業俱樂部に於て開催す。

井島専務理事は東京商工會議所に於て大阪商工會議所高柳松一郎氏と面會、同氏設立の日濠通商懇話會と本協會とは今後聯絡を採ることに關し意見の交換をなすことに一決せり。

同 十年三月十五日 オーストラリアン ブレックス アツソシエーション及キャナディアン ブレックス記者バーシイー ホワイティング氏來訪あり日濠及日加通商に付會談す。

同 十年三月二十七日 濠洲聯邦政府外務大臣フュース氏より電信を以て日濠協會宛本年一月十四日附同大臣書狀之通り濠洲に關する各般の書籍を一纏としてシドニー港よりメルボン丸に積込み發送したる案内に接したるに依り直に阪谷會長の名を以て謝電を送れり。

同 十年三月二十八日 本協會理事大阪商船株式會社取締役渥美育郎氏來る四月初本邦出發北米、

南米、歐洲を経て本年十一月末歸朝の豫定。

同 十年三月二十八日 横濱ライジングサン石油會社礦油部支配人にして濠洲人たるエッチ ウツドフィールド氏日濠通商の件に付來訪さる。

以 上

日濠協會昭和九年度(第七回)決算報告(自昭和九年四月三十一日
至昭和十年三月三十一日)

一四

科 目	豫想收入額	實際收入額	實 際 收 入 額 摘 要
一 贊助會員會費	三、六〇〇	三、六五〇	贊助會員三十口(別紙明細表ノ通り)
一 普通會員會費	一〇二	九六〇	普通會員十六口(別紙明細表ノ通り)
一 定期預金利息	二〇〇	二一八	金六、二六二圓二六ニ對スル昭和八年七月十一日ヨリ昭和九年七月十六日迄、年三厘七厘利息金二三四圓八六ヨリ税金十六圓四四引殘額、昭和九年七月十六日定期預金六千圓ニ書替
一 當座預金利息	〇	一一一	金一二〇圓日加協會ヘノ貸室料、金五〇圓古書棚參個椅子壹個賣却代
一 雜 收 入	一二〇	一七〇	
計	四、〇二二	四、一四五	
前年度繰越金	〇	九、二八三	
收入合計	〇	一三、四二九	

支出之部

科 目	豫想收入額	實際支出額	實 際 支 出 額 摘 要
一 會 議 費	二〇〇	一八五	理事及幹事會費第六回總會費、金一、三九三圓九一、濠洲聯邦政府外相レサム氏歡迎費、金八六圓四〇、コト氏歡迎費、金一〇一圓二六、バクソン氏歡迎費、金三〇圓八〇、クインスランド海軍總督ワケルソン氏歡迎費、金三六圓〇五、其他の接待費
一 接 待 費	五〇〇	二、三三九	

科 目	豫想收入額	實際支出額	實 際 支 出 額 摘 要
一 借 室 費	四二〇	四二〇	本協會借室料一箇年分
一 事 務 費	一〇〇	八一九	金五四六圓八〇、第四號會報八〇部、金九三圓六七、レサム氏復命書一、五〇部、金九圓七〇、レサム氏歡迎ニ關スル分、金七九圓一九、報告書、英和書輪用紙其他
一 調 査 費	一〇〇	一七三	會報、其他印刷物送料、海外電報料其他
一 通 信 費	二〇〇	九四	文房具其他消耗品
一 消 耗 品 費	一〇〇	一四三	金八六圓七〇、シドニー、モリニンゲ、ヘラルド紙、金五七圓二二、輸出年鑑其他參考書
一 圖 書 費	二〇〇	二七五	金一九五圓、アンダーウッド英文タイプライター一臺及附屬品一式、金八〇圓、ロイヤル贈寫版器一臺及附屬品一式
一 什 器 費	二〇〇	七七〇	書記手當年額六五〇圓使丁一二〇圓
一 諸 給 費	七二〇	六四二	故清水事務理事、幹事其他ヘノ謝禮
一 書 記 使 丁 諸 報 酬	六〇〇	一三九	金七三圓九六交通費、金二八圓日濠國旗、金二〇圓
一 雜 費	二〇〇	六九八	日本工業俱樂部ヘ謝禮、金一七圓六四、新開代其他
一 豫 備 費	五八二	六、七〇一	金三〇圓故清水精三郎氏ヘ香典、金三〇圓清水家
一 支 出 合 計	四、〇二二	六、七二七	五、六圓書棚貳個新調費、金一二圓五〇、其他
一 收 支 差 引 殘 高	〇	一三、四二九	
合 計	〇	一三、四二九	

※昭和十年三月三十一日預金並現金有高

六、七二七圓七〇錢

一六

内 譯

一定 期 預 金
一 當 座 預 金
一 手 許 現 金 有 高

六、〇〇〇圓〇〇錢

七二〇圓六三錢

七圓〇七錢

以 上

右之通りニ御座候也

昭和十年三月三十一日

日濠協會
專務理事 井 島 重 保 印

右調査致候處相違無之候也

昭和十年四月八日

日濠協會
會計監査會 飯 田 藤 二 郎 印

日濠協會昭和九年度收入濟會費明細表

(昭和九年四月一日ヨリ
同十年三月三十一日迄)

(年 額)	(會員各いろは順)	(年 額)	(會員各いろは順)
一金貳百圓	贊助會員 日本郵船株式會社	一金百圓	贊助會員 東濠汽船株式會社
一金貳百圓	同 日本毛織株式會社	一金百圓	同 東洋モスリン株式會社
一金貳百圓	同 日本綿花株式會社	一金百圓	同 東京海上火災保險株式會社
一金貳百圓	同 大阪商船株式會社	一金百圓	同 栗原紡織合名會社
一金貳百圓	同 大倉商事株式會社	一金五拾圓	同 株式會社伊丹製絨所
一金貳百圓	同 山下汽船株式會社	一金五拾圓	同 株式會社岩井商店
一金貳百圓	同 株式會社兼松商店	一金五拾圓	同 日本陶器株式會社
一金貳百圓	同 高島屋飯田株式會社	一金五拾圓	同 堀 越 商 會
一金貳百圓	同 富士瓦斯紡織株式會社	一金五拾圓	同 大阪毛織株式會社
一金貳百圓	同 橫 濱 正 金 銀 行	一金五拾圓	同 橫濱火災海上保險株式會社
一金貳百圓	同 三井物産株式會社	一金五拾圓	同 福井縣織物同業組合
一金貳百圓	同 三菱商事株式會社	一金五拾圓	同 桐生織物同業組合
一金百圓	同 日本製粉株式會社	一金五拾圓	同 共立モスリン株式會社
一金百圓	同 日清製粉株式會社	一金五拾圓	同 宮川モスリン株式會社
一金百圓	同 東京モスリン紡織株式會社	一金五拾圓	同 増田・合資會社
小計 金參千六百五拾圓也			

一金六圓	普通會員	海外興業株式會社
一金六圓	同	代表取締役社長 岩井勝次郎
一金六圓	同	組長 龜井信次郎
一金六圓	同	代表者 野崎洋平
一金六圓	同	名古屋商工會議所會頭
一金六圓	同	日本生命保險會社
一金六圓	同	代表者 山本留次
一金六圓	同	滿洲興業株式會社
一金六圓	同	東京商工會議所理事
一金六圓	同	日本經濟聯盟會
一金六圓	同	東京モスリン紡織株式會社
一金六圓	同	東洋整毛株式會社
一金六圓	同	東京モスリン紡織株式會社
一金六圓	同	丹波商會
一金六圓	同	外務省通商局囑託
一金六圓	同	日本商工會議所

合計 金參千七百四拾六圓也

小計 金九拾六圓也

井上雅二	中央毛糸紡織株式會社
橫濱輸出絹織物同業組合	野崎商會
成瀨	成瀨
株式會社博進社	永瀧久吉
波邊鐵藏	高島誠一
杉本徳三	宗像善雄
名取義一	丹波恒夫
杉田祥夫	依田信太郎

以上

日濠協會事務所備品目錄 (昭和十年三月三十一日調)

品名	個數	購入年月日	購入金額
兩袖機	壹	昭和五年十一月七日	金參拾五圓也
同	壹	同	金參拾五圓也
廻轉椅子	壹	同	金拾圓也
傘立	壹	同	金貳拾五圓也
卓上電話機	壹	昭和五年十二月一日	金四拾五圓也
フアイル穴明器	壹	昭和五年十二月六日	金貳圓八拾錢也
アンダーブライト	壹	昭和九年四月三十日	金百九拾五圓也
ローヤル膝寫器	壹	昭和九年八月七日	金八拾圓也
書棚 (高さ九尺 幅六尺)	貳	昭和十年三月二十六日	金百五拾六圓也
合計			金五百八拾三圓八拾錢也

以上

日濠協會昭和十年度豫算案 (昭和十一年四月一日ヨリ 同十一年三月三十日迄)

◎ 收入之部

合 計	前年度ヨリ繰越金	雜收入 (日加協會(貸室料其他))	預金利息	普通會費	贊助會費
一〇、七九三七〇	六、七二七七〇	四、〇六六〇〇	一、二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	三、六五〇〇〇
				九六〇〇〇	
					二〇〇〇〇

◎ 支出之部

會 接 借 事	議 待 室 務	印 調 通	刷 查 信	費 費 費
一、〇〇〇〇〇	四、二〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇
				〇〇〇〇〇
				〇〇〇〇〇
				〇〇〇〇〇

合 計	內 譯 交	諸 什 圖 消 耗 通 品 費	內 諸 給 器 書 費	內 雜 諸 書 記 謝 使 禮 丁 費	豫 雜 備 費	收 支 差 引 殘 高
一〇、七九三七〇	一、四〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	九、〇〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	五、四七三七〇
		一、〇〇〇〇〇	二、〇〇〇〇〇	九、〇〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	五、三二二〇〇
		〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇
		〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇

以上

昭和十年四月十八日印刷
昭和十年四月二十日發行

(非賣品)

東京市港橋區西大久保三丁目二四番地

發行人 山岡讓

東京市麹町區永田町一ノ四

印刷人 小林又七

東京市麹町區永田町一ノ四

印刷所 小林又七

東京市麹町區丸之内一丁目二番地
日本工業俱樂部內

發行所 日濠協會

電話丸之内 (23) 一五四六、一五四七、一五四八、一五四九

終

3
2